

中山道みたけ館の軌跡をたどる

30th

anniversary

中山道みたけ館
開館30周年記念事業

令和8年度企画展
中山道みたけ館
30年のあゆみ

令和8年 6/30_(火) ~ 8/30_(日)

中山道みたけ館2階 郷土館 特別展示室

新規収蔵品の公開もあります

入館
無料

中山道みたけ館 〒505-0116 岐阜県可見郡御嵩町御嵩1389番地1 TEL:(0574) 67-7500/FAX:(0574) 68-0005

【開館時間】 火曜日～金曜日:午前10時～午後6時 土・日・祝日:午前9時～午後5時 【休館日】 毎週月曜日(祝日は開館)、毎月第3火曜日、毎月最終金曜日

30th 中山道みたけ館30年のあゆみ

御嵩町は昭和55年(1980)10月頃より、歴史資料館の開館を前提に、家庭にある古い道具や器具などの資料収集を開始しました。当時の町広報紙に「無言で語る昔のくらしぶり・ほっておけばなくなる一方・残し伝えるのは私たちのつとめ」と明記して資料の提供を呼びかけました。

こうして「御嵩町郷土館」は町民などからの提供あるいは長期借用の資料約6千点を収蔵した状態で、昭和57年(1982)4月に開館しました。

平成に入ると収蔵資料の増加による展示スペースの圧迫、郷土館の老朽化に加え、当時町内には地区の公民館の図書室があるのみで図書館が存在しないことから、郷土館の新築を望む声と図書館の建設を望む声が高まり、郷土館兼図書館という複合施設の構想が打ち出され、平成8年(1996)3月1日に「中山道みたけ館」が開館しました。

令和8年(2026)は中山道みたけ館が開館してちょうど30年になります。収蔵資料は2万点を超え、来館者は190万人を突破しました。(令和8年2月時点)

今回の展示は、この30年という節目に中山道みたけ館、特に郷土館で過去に開催した展示を紹介し御嵩町の文化振興の歩みを再確認するとともに、当時は収蔵していなかった資料を新たに公開することでみたけ館の進歩を実感できる機会になればと企画しました。

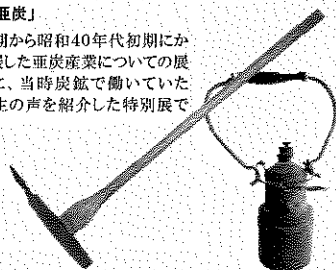
平成8年の中山道みたけ館開館記念展「浮世絵の世界＝広重・英泉の描く中山道美濃16宿＝」から令和8年の特別展「御嵩町70年のあゆみ みんなでつなぐみたけの未来」までのこれまでの展示の中から16の展示をテーマに選び、実際に当時展示した資料やポスター、新規収蔵品などを紹介しております。



主な展示資料

平成 19 年(2007)
「御嵩の重炭」

明治末期から昭和40年代初期にかけて発展した亜炭産業についての展示と共に、当時炭鉱で働いていた方々の生の声を紹介した特別展です。



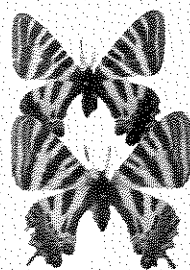
令和元年(2019)
「戦国最強の武将と呼ばれた男～槍の才蔵～可児才蔵展」

戦国時代、願興寺で生まれ、幼少期を過ごしたといわれる可児才蔵について、広島県の才蔵寺よりお借りした鎧や槍など才蔵ゆかりの品と共にその生涯を紹介した特別展です。



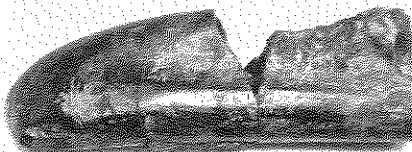
平成 21 年(2009)
「期間限定！みたけ昆虫館」

夏休み期間に合わせ、御嵩町周辺に生息する昆虫や珍しい昆虫の標本展示を中心に、昆虫の生態や郷土との関わりを紹介した企画展です。



平成 13 年(2001)
郷土の画家「服部保回展Ⅱ」

平成11年の回顧展に続き、服部保画伯ご自身より寄贈いただいた63点の作品の内、風景画など28点を展示した特別展です。左は令和6年度に新規収蔵した「勝浦」です。

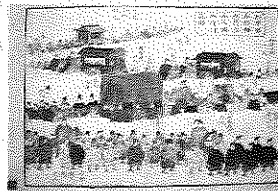


平成 17 年(2005)
「1800万年前、みたけに象がいた！」

1800万年前ほど前に生息し、御嵩町で発見された日本最古の象「ゴンフオデルウム・アネクテンス」を中心に太古の御嵩町の様子を紹介した特別展です。

平成 20 年(2008)
「中山道を通った人々」

中山道を通った大名や姫宮、旅をする一般庶民の往来にスポットをあて、どのような人が通行し、私たちの郷土にどのような足跡を残したのかなどを紹介した特別展です。



中山道みたけ館

〒505-0116 岐阜県可児郡御嵩町御嵩1389番地1

TEL:(0574)67-7500/FAX:(0574)68-0005

開館時間 ●火曜日～金曜日:午前10時～午後6時 ●土・日・祝日:午前9時～午後5時

休館日 ●毎週月曜日(祝日は開館) ●毎月第3火曜日 ●毎月最終金曜日

アクセス ●名鉄広見線「御嵩駅」下車徒歩3分 ●東海環状自動車道「可児御嵩IC」より車で10分

●中央自動車道「土岐IC」より車で20分

御嵩町 HP

